抄 錄

結核專門雜誌

Zeitschrift für Tuberkulose Bd. 79. Heft 3. 1938.

人體ニ於ケル牛型肺結核形成ノ二三ノ實例

Erik Törnell: Einige anschauliche Fälle der Entwicklung der bovinen Lungentuberkulose beim Menschen.

牛型肺結核ハ結核罹患動物ニ接觸シテモ起リ得ルモノデアルガ乳房結核ニ罹患セル牛乳ニヨツテ傳搬セラレル事ガ多ク牛型結核ノ小流行ガ起ルコトモ當然デアル。其小流行ハ著者ノ勤務セル Älvsborgs Zän ノ區域ニ於テ 1935 年以來 4 回以上モ到來シテキル。其何レノ時ニ於テモ、結節性紅斑、頸部淋巴腺腫脹及腹部症狀ヲ以テ罹患スル小兒ガ多カツタ。

著者ハ牛型結核菌感染ガ扁桃腺ヨリ侵入シテ後ニ肺ニ擴ガツタト言フ例ヲ二ツ揭ゲテ說明シテキル。卽 1 例ハ Priquet ハ陰性デX線所見ノ健康ナルモノガ、頸部ノ腫瘍、疼痛、發熱ヲ患ツタガ排膿ニヨリ治癒シタ。5 ケ月後ニハ再發扁桃腺炎及淋巴腺炎ト診斷サレタ。此時ハ Pirquet ハ强陽性ニ轉化シテキタ。X線所見ニ變化ハナカツタ。赤沈ハ 1 時間値 54 mm、3 週間後扁桃腺全摘出術ヲ行ヒ、其病理解剖學的所見デ定型的ナ結核性病變ヲ認メタ。9 ケ月後再三發病、胸部ハ肺炎樣浸潤ガ左上葉ニアリ。喀痰ノ結核菌陽性。喀痰及滲出液ノ細菌學的檢査ニヨリ牛型結核菌ヲ證明シタ。其後治療ニヨリ輕快シタ。

他ノ 1 例モ頸部淋巴腺炎ヨリ肺結核ヲ誘發シタモノデアル。

兩者トモ牛乳飲用ニヨル牛型結核菌感染ガ最初ニ扁桃腺炎、或ハ頸部淋巴腺炎ヲ起シ夫ニ續イテ肺結核ヲ誘發シタ例デアル。 (刀根山 山中抄)

著者ノ結核反應(M. Tb. R.)ニ就テノ其後ノ研究

Ernst Meinicke: Weitere Untersuchungen über meine Tuberkulose-Reaktion(M. Tb. R.)

著者ハ M. Tb. R. ニ於テ Kontrollröhrchen ニ於ケル陽性反應ヲ成ルベク少クスルコトニヨリ一層本反應ヲ改善セントヲ考ヘ居ルガ Abortis-Bang 血清反應用水製 Antigen ガ M. KR. II. ノ Flockungssystem ニ Schutzkolloid トシテノ强作用アルコトヲ見出シ之ニ「ヒント」ヲ得テ Schutzkolloid ノ適當ナルモノヲ探求シテ結核菌培養ノ Glyzerinbouillon ヲ得タ。此モノヽ適量ヲ M. Tb. R. 用水製抗元ニ加フル事ニヨリ一方特殊作用ヲ增强シ一方沈澱系ヲ制止シテ M. KR. II. ノ程度ニ下ゲルコトガ出來タ。ヨツテ M. Tb. R. ニ Kontroll-Antigen トシテ M. KR. II. 用標準抗元ヲ使用スルコトデ後方法ガ簡單ニナリ且ツ立派ナ結果ヲ得ルニ至ツタ。 (刀根山 山中抄)

肺上葉ニ於ケル一側性囊胞性氣管枝擴張症ノ一例

Emil Graubner: Ein Fall von einseitigen cystischen Bronchiektasien im Oberlappen.

患者ハ 1898 年生レデ 8 歲デ麻疹、23 歲ノ時肺炎(罹患側不明)、其後健康、1936 年 9 月喀血シ感冒トシテ治癒サル。1936 年 12 月ニ停止性纖維性空洞性肺結核ト診斷サル。1 ケ月後ニハ右肺上葉、纖維性潰瘍性結核ト診斷サレタ。1937 年 11 月 15 日ニ著者ノモトニ來ル。既往歷ヨリ觀ル時ハ喀痰ノ結核菌ハ陰性ニモ拘ハラズ、以上ノ診斷ヲセラレテキタモノデアル。

肺所見トシテハ胸廓ハ左右均齊デ廣ク穹窿狀ヲ呈シ、打診デハ兩側ニ變化ナシ。聽診デハ右側上葉ノ吸氣ハ氣管枝性音デ、濕性有響性囉音ト乾性囉音ヲ聽取シ、下方デハ乾性囉音消失シ濕性囉音ノミナリ。左肺後方ハ胸椎 VIII ト X トノ範圍ニ濕性囉音ノミ聽取、其他ハ著變ナシ。

Mantoux 反應陰性、其他尿血液ノ結核諸反應ハ陰性、ワッサーマン氏反應陰性ナリ。

Lipiodol ニヨルX線撮影デハ、左側下葉ノ弧立性紡錐狀氣管枝擴張ト右側上、中葉ノ囊胞性氣管枝擴張ガアリ、氣管枝ハ右方ヘ彎曲シテキタ。

以上ヨリ空洞性上葉結核ナル診斷ハ誤リデアル事ハ

確實デアル。然シ此氣管枝擴張症ガ先天性ノモノカ後天性ノモノカハ確定スル事ハ出來ナイ。

（刀根山　山中抄）

鳥型結核菌血清學的性狀ニ就テ

Harald Harpth: Über die Serologischen Verhaltniss des aviären Tuberkelbazillus.

鳥型結核菌ノ血清學的關係ヲ明カニシ又哺乳類結核菌ヨリ血清學的ニ判別セントスル企ハ多クノ研究者ニヨリテ行ハレタルモ其結果相一致セズヨリ多クノ材料ト同樣ノ方法トヲ以テスル廣範圍ノ檢索ヲ必要トス。

著者ハ「グリセリン」肉汁培養結核菌ヲ 70—75°C ニテ殺菌均等ナル浮游液ヲ作リ之ヲ家兎耳靜脈ニ注入シテ免疫血清ヲ作リ（鳥型、人型、牛型ニ對シ各數種ヅツノ Monovalente Serum）凝集素吸收交叉凝集反應試驗ヲ行ヒ次ノ結果ニ達シタリ。

1. 凝集反應ノミニヨリテ結核菌ヲ各型ニ判別スルコトヲ得ズ。 2. 吸收及ビ交叉凝集反應ニヨリ鳥型結核菌ハ人型及ビ牛型菌ヨリ區別シ得。 3. 鳥型ハスベテ同一型抗原ノモノト認メラレズ、他株鳥型菌抗血清ノ凝集素ヲ吸收シ得ザル鳥型菌株アリ又哺乳類結核菌抗血清ヨリソノ凝集素ヲ吸收シ去リ得ル株アリ。 4. 人型結核菌抗血清ヲ用ヒテ同樣方法ヲ行ヘバ集團的ニハ人型牛型兩者間ニ區別ヲ示ス傾向ヲ證明スルコトヲ得ルモ抗牛型菌血清ヲ以テシテハ不可能ナリ。

（刀根山　杉田抄）

1937年6月5日デュツセルドルフニ於ケル第20回ライン—ウェストファール結核學會報告

Loohtkemper: Tagungsbericht der Rheinisch-Westfälischen Tuberkulose-Vereinigung über die 20. Sitzung am 5. Juni in Düsseldorf.

最初ニ Brauer 教授ハ全身的治療能力ニ對スル檢査法及ビソノ意義殊ニ呼吸及ビ循環機能ノ檢査法ニツキ映畫ヲ以テ概觀ヲ說明シタ Eppendorf 及ビ Düsseldorf ノ教室（Knipping 教授）ノ業績ガ詳細ニ說明セラレタ、Günther Zaeper, ノ über die Blutsauerstoffdissoziations-Kurve bei Tuberkulösen ナル演說アリ、血液酸素解離曲線ノ左方及ビ右方移動ノ血液動脈血化及組織呼吸ニ對スル影響ヲ說明シ Brauer ノ所謂短絡浸潤（Kurzschlussinfiltrat）ヤ滲透障礙ニヨル血液酸素缺乏ヤ貧血ニヨル酸素缺乏ニ就テ論ジ、重症空洞性肺結核患者ノ血液酸素解離曲線ヲ測リタルニ明カニ左方移動ヲ認メタルヲ報告シ肺結核ニ於テ此左方移動ニ加フルニ屢〻存在スル所ノ貧血及ビ動脈血化障礙ノ重複スル場合組織ヘノ酸素供給困難甚ダシクナリ循環系ニ過大ナル負荷ヲ來スベキヲ主張セリ。

Schlösser 、「ヒスタミン」負荷試驗ニヨル呼吸機能檢査 188 例ニ就テ代表例ヲ說明シ、兩側ノ廣汎病竈ノ際ハ一般ニ肺活量及ビ無呼吸休止時間ノ減少アル上ニ「ヒスタミン」ニヨリ一層著明トナル。患側人工氣胸他側健康ナル時ハ兩者減少セルモ「ヒスタミン」ニヨリテ其度ヲ增スコトナシ。兩側氣胸ヲ行フ場合ニハ呼吸機能檢査ヲ以テ其遂行ノ指針トスベシ。

W. Vorwerk Spirographie ニヨル肺ノ血液動脈血化機能檢査ニ就テ述ベ、Heymer ハ自己ノ唱ヘ出シタル「ヒスタミン」負荷試驗法ニ就テノ注意ヲ述ベ、Th. Naegeli: Die Bedeutung der Atemfunktionsprüfung bei der chirurgischen Behandlung der Lungentuberkulose Knipping: 肺ノ血液動脈化機能ノ檢査ニハ二通リノ酸素壓ニ於ケル Spirographie ニヨリテ簡單ニ行ヒ得、Vorwerk ハ斯樣ナ Spirogramm ノ多數ヲ供覽セリ。

（刀根山　杉田抄）

Zeitschrift für Tuberkulose Bd. 79. H. 4. 1938.

結核ノ免疫ト Allergie

A. Nagel: Zur Frage der Immunität und Allergie bei der Tuberkulose.

結核菌ニヨリ感作セラレタル生體ハ重感染ニヨリ allergische Reaktion ヲ呈ス。本反應ハ結核菌ノ生、死、「ツベルクリン」、癩菌、大腸菌等重感染源ノ如何ニ不拘發現ス。而シテコノ際臟器ノ組織ニモ hyperergisch, allergische Reaktion ヲ呈ス。著者ハコノ hyperergisch, allergische Reaktion、病理解剖所見、生存期間等ヲ標識トシテ免疫ト allergie トノ關係ヲ探索セントシ次ノ實驗ヲ行ヘリ。實驗ハ海猴ヲ用ヒ、3 例ヨリナル。各例ノ試獸ハ更ニ數群ニ分チ各群ニハ結核菌ヲ初感染セザル對照ヲ置ク、弱毒菌ヲ用ヒテ感作セラレタル動物ハ群ニヨリ、時ヲ異ニシ、時ヲ同ジウシ、又ハ量ヲ異ニシテ、生又ハ死結核菌、「ツベルクリン」、大腸菌ヲ夫々靜脈內ニ注射シテ重感染ヲ企テ、更ニ一部

ニハ「アドレナリン」ヲ、一部ニハ麻醉劑ヲ應用シテ夫等ノ影響ヲモ考慮シテ成績ヲ判定セリ。免疫獸ハ試獸ニ比シテ病解所見ハ勿論輕ク、亦生存期間モ遙カニ長イガ、肺組織ノ hyperergisch, allergische Reaktion ハ特ニ顯著ニ認メ得ザリキ。コノ際「アドレナリン」、麻醉劑モ著變ヲ與フルモノニ非ズ、而シテ大量ノ結核菌ヲ以テ重感染ヲ企テタル試獸ニアリテハ肺ノ實質性出血、膨滿等ノ「ショック」樣現象ヲ呈スルモノアリシガ、之ニ初感染ニヨリ强ク興奮セラレタル植物神經ガ更ニ强毒菌ノ重感染ニヨリ急激ニ上昇セル毒作用ヲ受クル結果ニシテ、組織ノ hyperergisch, allergische Reaktion ト見ルベキモノニ非ズトセリ。斯クノ如クヨク免疫サレタル動物ノ組織ニモ hyperergisch, allergische Reaktion ハ殆ド發現スルモノニ非ザル故ニ、免疫ト Allergie トハ互ニ異ナル全ク別個ノ2現象ト見ルベキモノナリ。 (刀根山 柳澤抄)

小兒及ビ青年ニ於ケル開放性結核ノ豫後及ビ療法

Karl Ellinghaus: Zur Prognose und Behandlung der offenen Lungentuberkulose bei Kindern und Jugendlichen.

Charlottenhöhe ノ國立療養所ニ於テ1928ノ年カラ1935年マデニ治療シタ開放性結核ノ小兒ノ豫後ヲ性別、年次別、發病ヨリ死マデノ期間、手術ヲ加ヘタモノ、加ヘザルモノ、發病時ノ年齡ニツイテ比較檢査シ Klare ガ開放性結核ノ小兒及ビ青年ノ豫後ニツイテ發表シタ數値トヨク一致シタ成績ヲ得タ。小兒ニ於ケル最好望ノ治療ハ氣胸デアル。殊ニ一側又ハ兩側ノ氣胸療法デアル。然シ乍ラ小兒ニハ全ク家庭的關係アリテ無條件ニ氣胸療法ガ出來、充分監督ノ出來得ル保證ノ出來ナイ場合ニハ氣胸療法ヲ行フ期間中數年間モ入院ノ狀態ニオクコトガ絕對必要デアル。コノ期間中ノ學校及ビ手工ノ訓育ニ對シテハ成人ニ對シテアル作業療養所ニ倚託スルノガ最良デアリ最モ簡單デアル。 (刀根山 青野抄)

肺放線狀菌病ト結核ノ臨牀

Friedrich Baudach: Beitrag zur Klinik der Lungenaktinomykose und Tuberkulose.

肺放線菌病ハ比較的稀有ナル疾患デアルコト及ビ其特有ナル臨牀症候ヲ缺ク爲メニ診斷ハ非常ニ困難ナモノデアル。其症狀ハ殊ニ肺結核症ト類似シテ居ル爲メ一之ト間違テ治療サレ病勢ガ進行シ胸壁ニ瘻孔ヲ作ルニ及ンデ始メテソレト氣付ク事ガ往々有ル。著者ハ更ニ此ノ2ツノ病氣ハ單ニ臨牀症候ガ似テ居ルノミナラズ又肺ノ病理解剖的變化モ相似シテ居ル事及ビ從ツテ其レ線像モ共通シタ點ガ多イ事ヲ述ベ、更ニ進ンデ其感染經路ノ問題ヲ論ジ三轉シテ診斷ニ及ビ今日迄用ヒラレテ來タ色々ナ診斷方法例ヘバ細菌學的ノ檢査ヤ色々ナ生物學的反應ハ何レモ100%ニ於テ確實ニ之ヲ確診シ得ルモノナシト述ブ。肺放線狀菌病ニ於ケルレ線像ハ特有ナル陰影ヲ現ハスト主張スル人アリ又之ニ反對スル者アリ。

著者ハ其ノ療養所ニ於テ觀察シタル一例ノ肺放線菌病患者ニ就テ其臨牀病狀及剖見ヲ詳細ニ述ベテ居ル。此患者ハ同時ニ肺結核症ヲ合併シテ居リ而モ開放性結核デアツタ爲メニ肺放線狀菌病ノ診斷ガ殊ニ困難ナリシ例デアル。 (刀根山 西村抄)

結核治療ニ對スル最新ノ藥物及ビ榮養品

G. Schröder: Über neuere Medikamente und Nährmittel für die Behandlung der Tuberkulose.

I) 特殊的並ニ非特殊的刺戟療法

患者ノ有スル自然ノ抵抗力ヲ可及的高メ之ヲ有效ナル範圍ニ維持シテ行クノガ凡テノ結核療法ノ根本問題デアル。之ハ患者ノ植物性機能障碍ヲ調整シ、又其病勢ニ應ジテ或ヒハ積極的或ヒハ消極的ノ療法ヲ合理的ニ行フ事ニヨリテ達セラレル。結核ノ特殊抗元ナル「ツベルクリン」ヲ以テ結核患者ヲ desensibilisieren スルコトハ結核ニ對シ良好ナル影響アリヤノ議論ガアルガ、著者ノ多クノ經驗デハ陰性「アネルギー」ニ脅カサレル樣ナ場合ニハ「ツベルクリン」ニ對スル過敏性ヲ挑發スルコトハ必要ナ事デアル。今日デハ旺盛ナル「アレルギー」ハ網狀纖內皮細胞系ノ活潑ナル機能ノ標示ナリトスル意見ヲ抱ク人ガ多イ。著者ハ更ニ「アレルギー」ト免疫ノ問題ヲ論ジ二ツノ現象ハ平行關係アリト述ベ「アレルギー」ハ有害ニ非ズムシロ利用スベキモノナリト云ヒ、從ツテ B-C-G ノ豫防接種ニヨリテ陽性「アレルギー」ヲ作ラバ免疫力モ亦高メラレル。陽性「アレルギー」ハ全體ノ細胞ヲシテ病菌ニ對抗スル樣ナ意味ニ變調サセルト述ブ。著者ハ Paraf ノ實驗デ免疫現象ナルモノハ組織的ニ發生スルモノデ抗體ハ免疫ニ向ツテ何等ノ影響ナシト斷ジ從ツテ血液中ノ抗體ノ量多キ故ヲ以テ豫後可良ナリト考フルハ誤リナリト述ブ。而シテ今日迄結核ニ向ツテ他動免疫ヲ獲得セントスル幾多ノ企テハ何等良果ヲ見ナカツタノハ理ノ當然デアルト述ブ。「ツベルクリン」

ニ對スル高イ感受性ハ今日デハ罹患個體ノ强イ防禦力ヲ示スモノデアルカラ、カヽル患者ハ之ヲ desensibilisieren スル必要ハナイ。カヽル療法ハ效無キノミナラズ危險デアル。結核ノ特殊療法ハ病菌ニ對シ全ク無抵抗デハナイガヤヽモスルト其防禦力ノ低下セントスル樣ナ患者ニ向ツテ行フ可キモノデアルト述ブ。次ニ非特異性ノ刺戟療法トシテハ Czabo 氏ハ脾臟ノ越幾斯ヲ、Bézy 氏ハ Carion Kuthy ヲ推賞シテ居ルト述ベ尙其外ニ澤山ノ刺戟物ガアルデアラウガ今一ツ Brauer 氏ハ Much ノ「オムナヂン」ガ結核ノ經過中ニ起ル所ノ所謂隨伴加答兒ニ向ツテ良效ガアルノミナラズ更ニ其個體ノ防禦力ヲモ高メル所ノ合理的ナ非特異性刺戟物ニ屬スル藥品デアツテ其際忌ムベキ副作用ハ全然見ラレナイト云ツテ居ルト述ベテ居ル。

II) 化學療法

著者ハ第一ニ黃金製劑ニ就テ論ジテ居ル。黃金劑ハ之ヲ單獨ニ用ユルヨリモ特異性ノ抗元例ヘバ舊「ツベルクリン」或ヒハ著者ノ Thymus-tuberkulose-vakzine ト共ニ用ユル方ガヨリ有效ナル事ヲ主張ス。其理由トシテ著者ハ黃金劑及ビ抗元ノ奏效機轉ヲ詳論シタル後、Kutschera 及ビ Aichbergen ノ動物實驗ヲ紹介シ黃金劑ハ病竈ニ於ケル石灰化ヲ促シ特異抗元ハヨリ多ク結締織增殖ヲ促進スル意味ニ作用スル事ヲ主張ス。此療法ヲ行フ場合ハ患者ノ病勢ニ應ジテ其量ヲ加減スベキデ藥用量ノ問題ニ就テハ一定ノ規則ハ立テラレザル事及ビ適應症ニ就テ述ブ。

Aurodetoxin。之モ結核ニ良好アリ殊ニ其大量投與ニ耐フル點ニ特長アリト爲ス。

Silogran。之ハ Kieselsäure ノ製劑ナリ著者ノ臨牀上竝ニ動物實驗上ノ經驗デハ結核ニ對シ大ナル效果ハ認メラレズ恐ラク之ハ結核ニ向ツテノ眞正ノ化學療法製劑ト見做スベキモノニハ非ズシテ純粹ノ藥物療法ノ意味ニ於ケル緩和ナル刺戟劑デアラウト述ブ。

III) 藥物療法

II デ Kieselsäure ヲ論ジタガ著者ハ更ニ此處デ之ヲ再論スル。Kieselsäure ハ Kolloidal ノモノヲ推賞スル人ト Lipoidlöslich ノモノヲ推賞スル人トアリ。結核ニ對シ有效ナリト主張スル人ハ之ガ細胞ノ抵抗力ヲ高メルニ據ルトノ見解ヲ抱ク、Kieselsäure ノ吸入療法ハ害アリテ益ナシ。

Silphoscalin。之ハ Kieselsäure ト燐酸「カルチウム」トノ混合物ナリ Pfeifer 氏ハ結核ニ效アリト云フ。

Robrans Calcibiose, Arsen-Calcibiose。之ハ「レチチン」、「ヘモグロビン」、「ヴィタミン」、「カルチウム」及ビ鐵化合物ヲ含ム。Neumann ハ之ヲ推賞セリ。

Aegrosan。鐵ト「カルチウム」結核患者ノ貧血ニ效アリ。3%「ゲラチン」溶液。喀血ニ良效アリ Triolo 氏ハ「ゲラチン」療法ニヨリ罹患セル血管ノ Thrombosierung ノ結果病竈ニ結締織ノ增殖及瘢痕化ガ起ルト云フ。

Nanetol、骨髓內ニ含有サルヽ特殊ノ刺戟物質。喀血ニ有效。

Kongorot。1.5%溶液。靜脈內、之ハ網狀織內皮細胞系ヲ刺戟シ單核細胞增加ヲ起シ同時ニ血小板ヲ增ス事ニヨリ止血ノ效アリ。

Sangostop。之ハ galakturonsäureester、止血ノ效アリ。

Resyl。之ハ Guajakol、glyzerinäther ナリ。滴狀デ單獨投與又ハ「コデイン」ト共ニ與ヘ、祛痰ニ效アリ。

Expektysat, Expit, Isapogen, Hovaletten。之等ハ皆祛痰鎭咳劑トシテ良效アリ。

Peremesin。結核患者ノ嘔吐ニ效アリ。

Folinerin、Flury 及 Neumann ガ Oleander ノ葉カラ分離セルモノ結核患者ノ血行障礙心筋障礙ニ有效。其作用ハ「ヂギタリス」ニ類似ス。

IV) 榮養及榮養品

Bickel ハ榮養學ノ進步ニ大ナル功績ヲ殘シタ。彼ガ人間及動物ニ就テノ詳細ナル實驗的研究ニ據レバ肉體勞働ハ養價ノ高キ蛋白ヲヨリ多ク消費スルト云フ。此事ハ又一定ノ病氣殊ニ慢性ノ經過ヲトル結核ニ於テモ然リデアル。此意味ニ於テ肉類蛋白ハ結核患者ニ對シテ合理的ノモノデアル。半面ニ於テ又人類ハ雜食動物デアルカラ混合食ガ最モ榮養上正シイ食餌デアル。此際ニ量的及質的ノ過剩ハ避ケネバナラヌ事ハ申ス迄モナイ。此根本原則ハ結核ノ食餌ニ對シテ指針トナルモノデアル。Bickel ニヨルト「ヴィタミン」及ビ鑛物質補給ニ向ツテ良イモノハ粒狀「パン」、粗食「パン」及ビ堅「パン」デアル。之等ノ「パン」ハ小麥「パン」ヨリモ中間新陳代謝ニ對シテモヨリ良キ影響アリト云フ。又結核患者ノ榮養ニ於テ含水炭素ヲ多量ニ與ヘルコトハ一方蛋白質ノ節約トナリ他方脂肪ノ酸化燃燒ヲ良好ニスル意味ニ於テ推賞スベキ事デアル。ヘルマンスドルファー氏ノ食餌樣式ハ肺外結核ニ對シ良效アル事ハ永年ノ經驗ニヨリ確實デアルト述ブ著者ハ更

ニ結核患者ニハ「ヴィタミン」平衡狀態ノ障礙アルガ故ニ豐富ナル「ヴィタミン」量ヲ投與スベキコトヲ論ジ各種「ヴィタミン」ノ結核患者ニ對スル效果ノ種々ノ作用機能ヲ詳論ス。多量ノ「ヴィタミン」及酵素ヲ供給スル目的ニハ Bircher-Benner ノ Rohsäfte-Kur ヲ推賞シ脂肪肥滿ノ患者ハ之ニヨリテ水分ヲ脫却シ體重減少ヲ來シ循環器ハ之ニヨリ負擔ヲ輕減サル利益アリ。又新陳代謝ノ「アルカリ」化ハ恐ラク抵抗力ヲ高メル利益ガアルト述ベ而シテ之等ノ一方向キノ食餌樣式ハ結核ニ於テハ注意深ク愼重ニ行フベシト述ブ。結核患者ノ食慾ヲ亢進サセ速カニ體重ヲ增加サセルニハ「インスリン」ノ少量ヲ用ユベキコトヲ推賞シ之ハ又肺結核ニモ良影響アリト述ブ。最後ニ著者ハ糖尿病患者デ結核ヲ合併セル場合ニ注意スベキ事ハ糖尿病ナルモノハ單ニ膵臟ラ氏島ノ機能不全ニヨリテ起ルノミナラズ之ト反對ノ立場ニ立テル腦下垂體及ビ副腎ノ機能亢進ノ際ニモ起ル。故ニ結核患者ニシテ糖尿アル場合ハ其ノ食餌ハ其個々ノ場合ニ適合セルモノヲ撰ブベキデアルト述ブ。 (刀根山 西村抄)

孤立性喉頭結核問題補遺

Maria-Therese Charlier: Beitrag zur Frage des isolierten Vorkommens der Kehlkopftuberkulose.

組織學的檢査及動物實驗ニヨツテ初メテ結核デアルコトガ知ラレタ一見原發性孤立性喉頭結核ヲ思ハシメタ一例ノ報告デアル。 (刀根山 青野抄)

Zeitschrift für Tuberkulose Band 79 H. 5. 1938.

瓣氣胸ノ瓣ノ位置ト構造及治療

Erich Max Müller: Über den Sitz und Bau des Ventils beim Ventilpneumothorax und über die Behandlung dieses Krankheitsbildes.

從來ノ解剖的所見カラ瓣氣胸ノ發生個所ハ肺ノ最モ表面ナル肋膜部ニ占居シソノ機構ハ一般ニ瓣囊デアルカ又ハ細小瘻管ノ形デ起ルトサレテキル。所ガ著者ハ最近2例ノ剖檢ニヨリ之等ト異ツタ第三ノ樣式ヲ發見シタ。ソレハ空洞ニ開口スル氣管枝ニ潰瘍ガアリ壓ニ對スル過敏ノタメ瓣作用ヲ來タシタモノデ卽チ深部ニ於ケル呼吸性氣管枝閉鎖ニ由來スルノデアル。治療法トシテハ持續的吸引法、內外壓ヲ平均サセル法等ガアルガ著者ノ考案セル法ヲ紹介シ從來ノ方法ハ技術上ニモ理論上ニモ相違スルモノデ簡便ナルノミナラズ滲出液及膿胸ノ惹起ヲ少ナカラシメル優秀點ヲ有スルト述ベテキル。 (刀根山 松村抄)

滲出性肋膜炎研究補遺

Alberto de Carvalho und Carlos Vidal: Beitrag zum Studium der „Pleuritis exsudativa"

23例ノ肋膜滲出液ニ就テ培養試驗ヲ施行シタ。1例以外ハ孰レモ氣胸ニ由來セルモノデアル。ソノ中10例ハ漿液纖維素性デ他ハ多少ナリトモ膿性ノモノデアル。

培養基及培養法ハ Löwenstein 法ニ從ヒ10%硫酸水ニテ處置シ遠心沈澱物ヲ「ピペット」ヲ以テ培養シ、他方同時ニ對照トシテ動物試驗ヲ施行シタ。

培養ニヨリ結核菌ヲ證明シ得タモノハ77%デアル。コノ陽性率ハ餘リ高クナカツタガ、ソノ原因ノ一ツハ使用シタル雜菌除去法ノ不完全ニヨル培養不純ニアル。硫酸法ハ必ズシモ信賴シ能ハズト考ヘル。

次ニ肋膜滲出液ヨリ分離シタ結核菌ノ毒力ヲ海猪ニツキテ檢査シタルニ對照タル牛型毒力菌ニ比シ遙カニ弱毒デアツタ。 (刀根山 松村抄)

先天性胞狀氣腫ニヨル突發性氣胸ノ一例

K. Bühler: Kongenitales bullöses Lungenemphysem und Spontanpneumothorax.

外傷ソノ他ノ誘因無クシテ突發性氣胸ノ症狀ヲ呈セル51歲ノ男。X線及氣管枝鏡檢査ノ結果、右肺上、中葉ハ2個ノ巨大ナル囊胞ヲ形成シ、別ニ肋膜ニ存セシ先天性裂溝ニヨリ Ventilpneumothorax ヲ來セシモノ。同患者ノ所見ヨリシテ Bullöses Emphysem ハ氣管ノ交通異常ニヨリ生ズルモノニハ非ザルヲ附記ス。 (刀根山 岩崎抄)

v. Gröer 氏 Allergometrie ト局所血液像

T. Cerviá. J. Garciá Lopez, J. Pérez und A. Wildpret; Beitrag zum Studium der Allergometrie von v. Gröer durch das lokole Blutbild.

v. Gröer 及ビソノ共働者ハ、Tuberkulinreaktion ヲ數値的ニ測定シテ以テ Allergie ノ程度ヲ評價スル方法ヲ案出シ、之ヲ Allergometrie ト稱シテ居ル。著者等ハ、該 Allergometrie ノ成績ガ臨牀上果シテ妥當ナリヤ否ヤヲ批判スベク、性年齡及ビ病型ノ雜多ナル59例ニ就キ、Allergometrie ト共ニ局所血液像檢査ヲ併ハセ行ヒ、兩法ノ成績ヲ比較對照シテ孰レノ方

法ガヨリ良ク結核 Allergie ノ狀態ヲ標示シ得ルカヲ見タ。其結果著者等ハ、v. Gröer 氏法ハ誤差ヲ起スベキ因子ヲ餘リニ多分ニ藏シテ居ルノデ、本法ノ成績ノ當否ヲ判斷スル事ガ出來ナイ、從ツテ本法ノ立ツ理論ヲ直チニ承認シ得ナイノミナラズ、又本法ノ實地運用ニモ困難ガ存スル。併シ又、Helmreich ノ主張スル比較的局所淋巴球增多ヲ見ル方法ニセヨ Jones及ビ Crocker 兩氏ノ立テタ絕對的局所淋巴球增多ノ示數ニヨル方法ニセヨ、局所血液像檢査ガ Allergometrie ニ代ツテヨク Allergie 狀態ヲ標示シ得ルモノデアルトモ云ヘナイト結論シテ居ル。

（刀根山　刈部抄）

結核專門外雜誌

全身的血液像ト局所的血液像トヲ比較シタ結核性病竈反應ノ細胞像

Heinrich Baar: Über das Zellbild der tuberkulösen Herdreaktion im Vergleich mit dem allgemeinen und lokalen Blutbild. (Acta paediatrica Vol. XVIII, p. 322-339, 1936)

小兒ノ肋膜炎患者ト結核性腦膜炎患者トニ於テ、指先カラ採血シタ血液像(全身的血液像)トピルケ反應ノ際ニ生ジタ丘疹カラ採血シタ血液像(局所的血液像)トヲ檢シ、更ニ肋膜炎患者デハ胸腔內ニ、腦膜炎患者デハ脊髓腔ニ、夫々舊「ツベルクリン」0.1乃至0.5mgヲ注射シ、ソノ前後デ滲出液及ビ腦脊髓液ノ中性多核白血球ト淋巴球ノ數及ビ比率ヲ檢シタ。ソノ結果肋膜炎患者デハ全身的血液像ニ於ケルヨリ局處的血液像ニ於テ淋巴球增多ガ著シク、滲出液ニモ「ツベルクリン」注射後淋巴球ハ增加シタ。コノ際ノ淋巴球增多ハ特殊ナ「アレルギー」反應ト解サレル。腦膜炎患者デハ一致シタ成績ガ出テキナイガ、著者ハコレモ目的論的立場カラ說明シ得ルモノトナシ、Helmreich 說ヲ支持シテキル。　（京大小兒科　松田抄）

結核性腦膜炎ノ頻度ノ減少ニ就テ

Allan Gunther: About the decrease in the frequency of tubernular Meningitis. (Acta paediatrica Vol. XVIII, p. 340-356, 1936)

Wallgren ニヨレバ結核性腦膜炎ハ「ツベルクリン」反應ガ陽性ニナツテカラ4乃至8週ニ起ルコトガ最モ多イカラ、結核性腦膜炎ノ豫防ニハ、小兒結核ヲ早期ニ診斷シ、體溫、赤血球沈降速度ガ尋常ニナルマデ治療シ、更ニ結核ノ感染ヲ、特ニ乳幼兒ニ於テ防ガネバナラヌトスル。彼ハ相談所ノ活動ガ結核性腦膜炎ノ減少ヲモタラスモノトシゴーテンブルグニ相談所ノ出來タ1928年ノ前後ノ5年間ヲ比較シ乳幼兒ノ結核性腦膜炎ガ半數ニ減ジタトイフ。著者ハコレヲ吟味シヨウトスル。

北歐都市オスロー、コペンハーゲン、ゴーテンブルグデ年々結核死亡數ハ減少シツヽアル。而カモ結核性腦膜炎ハオスロー、コペンハーゲンニ於テハゴーテンブルグ以上ニ減少シテキル。然シコレラノ都市ニ結核性腦膜炎ニ對スル特殊ナ設備ガゴーテンブルグノ如クニツクラレタコトヲ聞カヌ。北歐都市ニオケル結核性腦膜炎ノ減少ノ一ツノ原因ハ感染源タル肺癆ノ減少ニアル。今一ツ北歐都市デハ小兒ノ出生數ガ年々減少シテキルカラ結核性腦膜炎ノ絕對數モ亦減少シタノデアル。　（京大小兒科　松田抄）

結核性腦膜炎ノ減少ニ就テ

Arvid Wallgren: On the decrease in tuberculous Meningitis(Acta paediatrica Vol. XVIII p. 474-481, 1936)

上記ノ Gunther ノ所論ヘノ反駁デアル。

乳幼兒ニ於ケルアラユル結核豫防ハ腦膜炎ノ豫防ト同ジデアル。而シテスベテノ腦膜炎豫防ハ全體トシテ結核豫防ヲナスモノデアル。

Gunther ガオスローニ於テ、結核豫防ハ乳幼兒ノ感染豫防ト並行シテ行ハレテキルコトヲ聞カレナカツタノハ遺憾デアル。コペンハーゲンデハ事情ガ少シク異ル。此處デハ結核ノ 1/5 ガ牛型菌ニヨルモノデアル。而モ近年牛結核ニ對スル豫防ガ最モ果敢ニ行ハレタノハデンマークデアルコトハ周知ノ事實デアル。

ゴーテンブルグニ關スル自分ノ報告デハ、小兒數ニ對シテノ小兒結核死亡ガ一般結核死亡率ニ比ベテ急激ナ減少ヲ示シタコトヲ明記シテキル。一般結核死亡率ノ減少、出生率ノ低下ハコノ急激ナ小兒結核死亡ノ減少ヲ說明シ得ルモノデハナイ。Gunther ノ意圖ハ善良デアルニシテモソノ所說ハ結核豫防活動ヲ過少評

價スル危險ヲ多分ニ持ツテキル。

(京大小兒科 松田抄)

1926年カラ1934年ニ至ルモスクワ市ソコルニチエスキイ療養所ノ資料ヨリ見タ小兒結核ノ「サナトリウム」療法

I. Maizel' i M. Preobradenski: Sanatornose letenie tuberklösa w rannem detskom wozraste po dannim Sokolniteskowo sanatopia (1926-1934 gg) (Sowetskaja Pediatrija S. 60-66, 1936)

1926年5月カラ1934年1月マデニソコルニチエスキイ「サナトリウム」(「ベット」數70)デ療養シタ580人ノ小兒結核患者ニ就テノ統計的觀察カラ著者等ハ次ノヤウニ結論スル。

1. 腫瘍形及浸潤形氣管枝淋巴腺炎、肺ノ浸潤、肺ノ播種形結核及肋膜炎ヲ病ム小兒ハ肺結核「サナトリウム」デ指導スベキデアル。

2. 「サナトリウム」ノ活動ノ基礎トナルベキモノハ規則正シイ療養教育生活、水浴日光浴療法、大氣療法及適當ナ榮養デアル。

3. 「サナトリウム」ニ於ル規則正シイ教育ハ小兒ノ恢復ニ大キナ意味ヲ持ツ。

4. スベテノ幼兒ノ代償性、亞代償性肺結核デハ日光治療法ヲ行フ。

5. 「ソヴェート」聯邦ノ中部地帶デハ「サナトリウム」ハ1年中ヲ通ジテ大氣療法ヲ大イニ利用スベキデアル。5月カラ9月マデハ夜間睡眠ハ大氣中デトラセル。冬期極寒(零下31度乃至34度)ニ於テモ午睡ハ大氣中デ行ハセ、散歩モ中止シナイ。

6. 「サナトリウム」生活デ小兒結核患者ハ1800乃至2000「カロリー」ノ大量ノ榮養價ヲ要スル。蛋白脂肪、含水炭素ノ比ハ正シカルベク、鹽類ノ「バランス」ハ「プラス」デナケレバナラヌ。

7. 小兒肺結核ノ「サナトリウム」滯在ノ平均期間ハ6ヶ月デアル。

8. 小兒肺結核ノタメノ「サナトリウム」ハスベテノ「サナトリウム」ニ必要ナモノヲ備ヘタ特別ノ建築物ヲ必要トスル。「サナトリウム」活動ニ先ヅ必要ナモノハ「レントゲン」室ト整備サレタ實驗室トデアル。

(京大小兒科 松田抄)

幼兒結核「アレルギー」ノ若干ノ病態生理學的指標ニ就テ。「アレルギー」ノ指標トシテノ(マンツー反應ニ際スル)「ツベルクリン—エオジン」嗜好細胞現象

I. W. Zimbler, P. M. Pecuk u. A. E. Gurewic, O. nekotorix patofiziologiceskix pakazateljax alepgii pri tuberkulöze u. detei rannewo wozrasta. Tuberkulino-eosinofilini fenomen (pri reakzii Mantoux) Kak pakaxatel alergii. (Sowetskaja Pediatrija 4. c. 11-18. 5. c. 3-11, 1936)

幼兒ノ活動性結核デハ微量「ツベルクリン」ニヨルマンツー反應檢査施行後半時間、4時間ニ於テ血液中ノ「エオジン」嗜好細胞數(Dünger 氏法ニヨリ計算)ノ減少ヲ見ルト言フ。「ツベルクリン」皮內反應ノ發赤ノ大サト「エオジン」嗜好細胞減少率トノ間ニ平行關係ハ見ラレナイ。

(京大小兒科 松田抄)

小兒結核ノ浸潤形ノ酸鹽基平衡ノ問題ニ寄セテ

N. Dobrinina-Beljazkaja: K. woprocu o. scelocno-Kislotnom rawnowesii u. detei c. infiltratiwnim formami tuberkulösa. (Sowetskaja Pediatrija 4. c. 19-23, 1936)

結核ノ浸潤形ヲ病ム小兒ニ於テハ「アチドージス」ヘノ著明ナ傾向ガ見ラレル(豫備「アルカリ」ノ低下)。進行形デハ豫備「アルカリ」數ハ通常低下シ、輕快スルモノデハ增加スル。

豫備「アルカリ」數ノ低下スル場合ハ大部分同時ニ赤血球沈降速度促進シ、白血球數增多アリ、核ノ左方移動ガ見ラレル。

酸鹽基平衡ノ狀態ト血糖トノ間ニ一定ノ合則的關係ハ認メ得ナカツタ。

(東大小兒科 松田抄)

幼兒結核ニ於ケル「ツベルクリン」反應ニ際スル血液像ト赤血球沈降速度

P. P. Holdberg u. A. E. Gurewic: Kartina Krowi i osedanie eritrozitow pri tuberkulinowix reakzijax u. tuberkulöznix detei rannewo wozrasta. (Sowetskaja Pediatrija 4. C. 24-30, 1936)

「ツベルクリン」試驗後ノ血液像ノ變化ハ結核個體ノ反應狀態ヲ反映スル。結核小兒ニトツテ「ツベルクリン」ニヨル試驗ハ植物神經系及「メゼンヒウム」ニ對スル機能的負荷試驗デアル。「ツベルクリン」ニ對スル「メゼンヒウム」ノ側カラノ反應ニハ次ノ種類ガアル。卽「ノルメルギー」反應、「ヒポエルギー」積極性反應、「ヒポエルギー」消極性反應、及ビ「ヒペルエルギー」反應ガコレデアル。

「ノルメルギー」反應ハ血液像デハ多核白血球數ノ增

加トシテアラハレ、「ツベルクリン」導入ノ影響下ニ於ル滲出性現象ノ强化ヲ示ス。

「ヒポエルギー」反應デハ血液像ニ著變ヲ起サズ、時ニ淋巴球性反應ヲ見ル。コレハ經過ガ安定シ、個體ノ「ツベルクリン」ニ對スル反應ガ一定不變デアル場合ニ見ラレル。卽積極的「ヒポエルギー」デアル。反之個體ノ一般狀態ガ惡化シテキル時ニ弱イ反應シカ見ラレヌコトガアル、コレハ消極的「ヒポエルギー」デアル。

「ヒペルエルギー」反應ハ血液像デハ「モノチーテン」組織球性細胞ノ增加、核左方移動及「エオジン」嗜好細胞ノ增加トシテアラハレル。コレハ小兒ノ不安定ナ經過ヲ呈スル結核ニヨク見ラレル。

血液像デ見ラレル反應ノ特性ハ「ツベルクリン」局所反應ト必ズシモ一致シナイ。之ハ「ツベルクリン」反應ノ際ニ血液像試驗ノ必要ナコトヲ語ル。

「モノチーテン」反應、核左方移動、滲出性反應ノ增强ノ時ニハ赤血球沈降速度ハ促進スル。

小兒結核ニ於ケル「ツベルクリン」反應ニ際スル血液像ノ動態ハ豫後及結核疾患ノ特殊療法ノ問題ノ支點トシテ役立ツ。 (京大小兒科 松田抄)

幼兒結核「アレルギー」ノ若干ノ病態生理學的指標ニ就テ。「ツベルクリン」-「エオジン」嗜好細胞現象ノ機轉ノ問題

L. M. Pecyk: O. nekotopix patofiziologiceskix pokazateljax alergii pri tuberkulös u. detei rannewo wozracta. K. woprosn O. mexanizme tuberkulino-eosinofilinowo fenomena. (Sowetskaja Pediatrija 5. C. 12-18, 1936)

「ツベルクリン」-「エオジン」嗜好細胞現象ヲ檢査シタ結核幼兒ニ更ニ「アドレナリン」及ビ「ピロカルピン」皮下注射ヲ併用シテ同樣半時間後ノ血液中ノ「エオジン」嗜好細胞數ヲ計算シ比較シタ。サキニ「ツベルクリン」-「エオジン」嗜好細胞現象ノ陽性ニ出タ小兒ニ限リ、植物神經系-「ツベルクリン」-「エオジン」嗜好細胞反應ノ何レカ一ツガ陽性ニ出タコトハ該現象ガ植物神經系ト關係アルコトヲ示ス。「ツベルクリン」ノ「エオジン」嗜好細胞ニ及ボス影響ハ「アドレナリン」ノ作用ト同一視スルコトハ出來ヌ。比較的經過ノヨイ幼兒結核デハ「ワゴトニー」ガ多イ。「ツベルクリン」皮膚反應ト「ツベルクリン」-「エオジン」嗜好細胞現象トハ植物神經系毒ニ對シ平行シナイ。

(京大小兒科 松田抄)

小兒集團ニ於ケル結核ノ問題

A. M. Kropacew: K. woprocu o tuberkulöse w detskix Kollektiwax. (Sowetskaja Pediatrija 5. C. 120-124)

1925年カラ1927年ニワタリ著者自ラガソヴェート聯邦ノ種々ノ地方ノ幼稚園、託兒所デピルケ反應ヲ1週間ノ間隔デ2回繰返ス試驗ニヨリ結核感染ヲ檢査シタトコロ各地ニ於テ略〻同樣ノ感染率ヲ見タ。卽チ

4—5 歲	44.1%
5—6 歲	43%
6—7 歲	63%
7—8 歲	64%

第2回ノピルケ檢査デ陽性ニ出ルモノガ陽性者ノ8%ニ於テ存スル。ソノ後年々小兒ノ結核感染率ハ減少シテキルガ、コレハ託兒所、幼稚園デ媒母ノ結核檢査ヲ嚴重ニ行フヤウニナツタ結果デアル。

(京大小兒科 松田抄)

結節性紅斑ト結核

O. A. Kaprieljan i C. A. Agamirzow: Uzrowaja eritema i tuberklöse. (Sowetskaja Pediatrija 9. C. 88-95. 1936)

臨牀的事實ハ結節性紅斑ノ古イ概念ヲ動搖セシメツツアル。結節性紅斑ト結核トノ關係ハ益〻確カニナツタ。著者ノ「クリニーク」デハ過去6年間ニ35.457人ノ小兒患者ヲ取扱ツタガソノ中本疾患ハ60例アツタ。男兒ヨリモ女兒ニ多イ。學齡期ニ最モ多イ。ソノ年齡的分布ハ結核ノ年齡的分布ニナラフ。季節的ニ來ルモノデ結核性腦膜炎ト季節ヲ同ジクスル。本疾患ハ種々ノ體質ノ小兒ニ來得ル。ピルケ反應ハ强陽性ノモノガ多イ。大部分「レントゲン」デ結核性變化ヲ呈スル。本疾患ヲ有スル小兒ハ發疹直前カ又ハ發疹中ニ「ツベルクリン」反應ガ陽性トナツタモノデアル。結節性紅斑ノ局處ノ血液像ハ「ツベルクリン」丘疹ノソレト同一デアル。本疾患ハ「ヂスペンサリー」デ取扱フベキモノデアル。 (京大小兒科 松田抄)

小兒ノ骨、關節結核ノ早期症狀

E. Rolie: O. wijawlenii rannix form Kosto-sustawnowo tuberklöse u detei. (Sowetskaja Pediatrija 9. C. 96-99, 1936)

ソヴェート聯邦ニ於テ小兒ノ骨、關節結核ノ出現率ハ1萬人ニ對シ8乃至9人デアル。3歲カラ6歲マデガ

最モ多イ。骨、關節結核ハ今マデ健全デアツタ結核感染兒ニ突然ニ起ルヤウデアルガ、注意シテキレバ早期症狀ヲ發見出來ル。

1) 夜ニ小兒ガ突然泣キ出スノ一本疾患ニヨルモノガアル。晝間ハ骨ヲ支ヘテキタ筋肉ガ睡眠中ニ弛緩シテ、關節ノ疼痛ガ直接ニ感ゼラレルカラデアラウ。

2) 機嫌ガ惡クナル。

3) 訴ヘガ週期的ニアル。

カヽル早期症狀ハ小兒科醫ガ見ルコトガ多イノデアルカラ小兒科醫ハ骨、關節結核ノ早期診斷ニ熟達シテキナケレバナラヌ。カヽル症狀ノアル兒ハ注意シテコレヲ兩脚比較シテ檢査スル必要ガアル。「レントゲン」ハ早期診斷ニ役立ツカトイフ問一ハ、技術ト「フィルム」トノ問題ダト答ヘルシカ他ガナイ。脊椎ノ寫眞ハ必ズ二ツノ面カラ撮ラネバナラヌ。變化トシテハ「オステオポローゼ」ト「アトロフィー」トガ重要デアル。「レントゲン」所見ノナイ時ニハ臨牀症狀ニ從フベキデアル。最近本邦デヒドイ變形ヲ起シタ骨、關節結核ヲ見ルコトガ少クナツタノハ對結核施設ノ普及シタタメデアル。 (京大小兒科 松田抄)

幼兒結核ノ疫病學ト豫防

K. I. Balander: K. epidemiologii i profilaktike tuberculösa w rannem detstwe. (Sowetskaja Pediatrija 10. C. 40-46, 1936)

從來小兒結核ノ感染源トシテハ成人結核ノミガ擧ゲラレタガ最近ノ諸研究特ニ結核小兒ノ胃內容ノ菌證明ハ小兒モ亦感染源トナリ得ルコトヲ示シテキル。著者モモスクワ市ノ病院デ結核小兒(非代償性ノ小兒肺結核、播種形結核、粟粒結核、結核性腦膜炎)ノキタ「ボックス」デ、枕掛、食品、寢臺、玩具、「ボックス」ノ壁ニ結核菌ノ存在スルコトヲ動物試驗デ確メタ。從ツテ小兒ヲ多數ニ收容スル託兒所デハ結核感染兒ト非感染兒トヲ峻別シテ感染ヲ豫防セネバナラヌ。スベテノ入所兒ニ「ツベルクリン」皮膚試驗ヲ行ヒ感染兒ヲ發見スルヲ要スル。コノ中6ケ月未滿ノ感染兒ハ豫後愼重ヲ要スルカラ託兒所ニ不適當デアル。ピルケ反應陽性兒ハスベテ「レントゲン」檢査ヲ行フ。肺ノ浸潤形ヲ有スル小兒ハ12人乃至15人ヲ集メテ一ツノ「サナトリウム」群トシ他ノ小兒カラ隔離シ、特別ノ「ヴェランダ」庭園ヲ備ヘサセ、榮養ヲ充分ニ與ヘネバナラヌ。6ケ月カラ1歲半マデノ感染兒ト1歲半カラ3歲マデノ感染兒トハ分ケル方ガヨイ。結核感染乳兒デハ玩具、寢具、食器ハ共通ニシテハナラヌ。咳嗽ヲスル感染兒ハ隔離ヲ要スル。託兒所デ働ク成人ノ健康ハ嚴重ニ監視サルベキコト勿論デアル。

(京大小兒科 松田抄)

小兒漿液性肋膜炎ノ臨牀

W. A. Beloucow u. M. P. Leibowa: Klinika seraznowo plewrita u. detei. (Sowetskaja Pediatrija 11. C. 97-102, 1936)

漿液性肋膜炎ハ5歲以上ノ小兒ニ多ク、著明ナ慢性結核性中毒症ノ症狀ヲ呈スル。屢〻漿液性肋膜炎ハ前驅症ナシニ突然始マル。最初ノ症狀ハ胸痛、咳嗽、呼吸困難等デアル。頭痛、倦怠、食慾不振等ノ一般的反應ハアマリ長ク續カズ最初ノ10日間デ消失スルノガ常デアル。局處ノ所見ハ最初ノ5日間デ頂上ニ達スル。コレラノ變化ノ後退ハ3週間目カラ始マル。熱型ハ弛張又ハ間歇熱デ、次第ニ解熱スル。有熱期平均ハ1ケ月デアル。著者等ノ例デハピルケ反應ハスベテ陽性デアツタ。血液像ハ白血球增多ト核左方移動ガ多カツタ。疾患全體ノ經過ハ平均80週デアツタ。豫後ハツネニ可良デアル。 (京大小兒科 松田抄)

乳幼兒ノ結節性紅斑

A. M. Kropaceae i W. N. Werzner: Uzlowataja eritema u. detei rannewo Wozrasta. (Sowetskaja Pediatrija 12. C. 57-65, 1936)

乳幼兒(0—3歲)ノ結節性紅斑ハソレ程稀ナモノデハナイ。著者等ハコレヲ3年間ニ30例見タ。外來乳幼兒患者ノ0.2%、結核乳幼兒ノ6%ニアタル。定型的ナ紅斑ノ他ニ、非定型的ナ、經過ニ於テモ「アボルティーフ」ナモノモアル。總テノ例ニ於テ結核感染ガ確メラレタ。「レントゲン」デ局處性ノ結核ノ發見サレタモノハ40%デアツタ。9例ニ於テハ紅斑發現前1乃至4ケ月ニハピルケ反應陰性デアツタ。結節性紅斑ヲ伴フ結核ノ豫後ハヨロシクナイ。特ニ年齡ノ幼イ程サウデアル。結核ノ小兒デハツネニ結節性紅斑ノ有無ヲ注意シテ探サネバナラヌ。 (京大小兒科 松田抄)

先天性結核ノ發生ヲ顧慮シテノ人ト牛ノ胎盤ノ結核症

L. P. H. J. de Vink: Tuberkulose der Placenta des Menschen und des Rindes im Hinblick auf das Vorkommen der Kongenitalen Tuberkulose. (Archiv fur Gynaekologie Band 164. Heft 3. 1937)

先天性結核ニ就テハ今日尙醫師ヤ獸醫ニトリテ非常

ニ興味ガ向ケラレテキル。著者モコノ問題ニツイテ實驗シ人間ノ場合ト牛ノ場合ニオイテ先天性結核ニ於テ大ナル差違ヲ發見シタ、最初コノ先天性結核ニツイテ說ヲ提示シタノハ Baumgarten デアルガ今日先天性結核ノ傳染經路ニツイテ二ツノ型ガ考ヘラレテキル。ソノ一ツハ胚種性傳染デアリ他ノ一ツハ胎盤透化性傳染デアル。前者デハ卵ノ感染ハ受胎前ニ母體自身ヨリ將來スルガ然シ男子カラ出發シテノ胚種性傳染モ存在スルモノデアル、卽チ人ノ精液ノ中ニ結核菌ノ存在ガ證明サレ又動物實驗デモコノ種傳染ノ可能性ガ證明サレテキル、然シ胚種性傳染ヨリモムシロ胎盤透化性傳染ガ多クノ學者ニヨリテ重要視サレテキルモノデアル、次ニ著者ハ人間ノ胎盤ノ結核及ビ牛ノ胎盤ノ結核ニツイテ論ジテキルガソノ前ニ人ト牛ノ胎盤ニツキ詳述シテキル、ソレヲ要約スルト先ヅ絨毛デアルガ人間ノ胎盤ノ絨毛ハ盤狀ニ存在シテキルガ牛ノ場合ハ集團的ニ存在シテキル、人間ノ胎盤ニハ脫落膜ガアルガ牛ノソレニハ脫落膜ガナイ、卽チ無脫落膜デアル。人間ノ胎盤デハ母體血液ハ胎兒側絨毛ト直接接觸シテキルガ牛ノ場合ハソノ間ニ結締織ヨリナル隔壁ガ存在シテキル、卽人間ノ胎盤ハ血液絨毛膜性胎盤デアルガ、牛ノソレハ靭帶絨毛膜性胎盤デアル、更ニ牛ノ子宮粘膜ハ多數ノ排列セル粘膜息肉ヲ有シソノ間ヲ乳狀ノ子宮乳汁ト云フ液デ充サレテキルモノデアル。

サテ人間ノ胎盤ノ結核ニツイテ述ベル前ニ壁脫落膜ノ結核ニツイテ述ベテ見ルニ、コノ部ノ結核ニツイテハ Schrumpf, Sitzenfrey, Kraus, Lanz, Fiedler 等ニヨリコノ部ニ結核性變化ヲ屢〻見ルモノナリト述ベテキルガ、壁脫落膜ヨリ羊膜ノ方ヘノ傳染ニツイテハ述ベテキナイ、然シ壁脫落膜カラ羊膜更ニ羊水ニ結核ガ傳播シ胎兒ノ傳染モ可能ナリトテ Herrgot, Hanshalten. Geipel ソノ他ノ學者ニヨリ唱道サレテキル。サテ人胎盤ノ結核症ニツイテハ多數ノ學者ノ報告ガアルガ人胎盤デハ肉眼的ニハ何等結核性變化ヲ證明スル事ガ出來ナイデ顯微鏡的檢索ニヨリ初メテ著明ナ結核性變化ヲ證明サレルモノデアル、コノ人胎盤ノ結核ニツキテハ Schmorl ヲ初メトシ、Geipel, Runge, Warthin 等ノ詳細ニ亘ル報告アリ、是等學者ニヨリ次ノ如ク人胎盤ノ何レノ部ガ結核ニヨリ犯サレルカニ就テ述ベラレテキル、彼等ハ次ノ5ツノ場所ヲアゲテキル、卽人胎盤ノ內最モ結核ニ犯サレ易イ部位ハ絨毛間腔デアル、次イデ絨毛、脫脫落膜、絨毛膜及ビ絨毛ノ血管デアル、牛デハ絨毛膜下ノ罹患ガ最モ多イノデアル。

サテ牛ノ胎盤ノ結核デアルガソレヲ述ベル前ニ牛ニハ脫落膜ガナイカラ、牛ノ子宮粘膜ノ結核性變化ニツイテ述ベテ見ルト、牛ノ子宮粘膜デハ粘膜ノ深層卽チ固有粘膜層及ビ粘膜ノ表層モ犯サルモノデアル、而シテ深層ノ變化ハ定型的ノ結核ヲ形成シテキルガ表層デハ何等定型的ノ結核ノ構造ヲ示サズシテイタル所ニ壞疽樣組織ヲ認メラル、卽チ深層ニオケル傳染ハ血液道ニヨツタモノト考ヘラレ、而シテ腺ヲ通ジテ子宮腔ニ通ジ粘膜ノ表層ノ傳染ヲ招來シタモノト考ヘラル。

次ニ牛ノ胎盤ノ結核ニ就イテ述ベテ見ルト、繁茂絨毛膜ト粘膜息肉ノ間ニ大ナル結核性變化ヲ見ル、コノ病的變化ヲ呈セル場所デ境サレタ部分ニハ炎症性變化ガ見ラレル、ソノ變化ハ子宮粘膜ノ表層ニ見ラレタモノト相似シテキル。

サテ牛ノ粘膜ノ變化ヲ觀察シテソノ傳染經路ヲ考ヘテ見ルニ上述ノ如ク深層ハ血液道ニヨル傳染デアルガ、ソノ表層ノ傳染過程ハ肉眼的、顯微鏡的所見カラ考ヘルト粘膜ノ深層ニアル結核ハ屢〻子宮腺ト連續シテキルカラ粘膜ノ深層ニアル結核ガ表層ニ移行シタモノト考ヘラル。シカラバ牛ノ胎盤ノ傳染經路ハ如何ト云フニ、牛ノ胎盤ニオケル傳染部位ハ主トシテ絨毛膜下ニアツテ、ソノ變化ハ子宮粘膜ノ表層ノ變化ト非常ニ近似シテキル點カラ考ヘテ牛ノ子宮胎盤ノ傳染ハ子宮粘膜カラ直接ニ連續シテ結核性變化ガ起ツタモノト思考サル。之ニハ卽チ子宮乳汁ガ與ツテキルモノデアル、結核性變化ノ部位及ビ傳染經路ヲ人間ノ場合ト比較シテミルニ人間デハ胎盤ノ結核性變化ハ大部分血液道ニヨルモノデアツテ、ソノ結核炎症ハ常ニ增殖性デアル、而シテソノ變化ハ主トシテ絨毛間腔ニ見ラレル、絨毛ハ常ニ傳染ノ危險ヲ防グタメニ絨毛ノ血管ニ血栓ヲツクツテキル、牛デハ絨毛膜下ニ最モ屢〻結核性變化ガ見ラレ、シカモソノ結核性炎症ハ滲出性變化デアル、而シテ絨毛ハ炎症ニ參與シ急速ニ進展スル傳染ヲ防グ事ガ出來ナイ、隨ツテ絨毛ニハ何處ニモ血栓ガ見ラレナイ。

以上ヲ結論スルニ牛ニハ人間ヨリモ先天性結核ガ多イノハ次ノ如クデアル。人間デハ增殖性變化デ絨毛ガ近ヅケル傳染ニ對シテ防禦力ガアルガ牛デハ滲出性

變化デアツテソノ部ニアル絨毛ガスベテ破壞サレ防禦力ガ減少シテキルタメデアル。

（名醫大產婦人科　御馬舍抄）

肺結核ト妊娠

v. Probst(Monatsschsift für Geburtshilfe und Gynäkologie Bd. 106 Ht. 5 S. 306. Oct 1937)

昨年ニ於テモ亦、結核ト妊娠ニ對スル論文ハ多數出タガ全體的ノ狀況ハ變化セズ數年來增加シテキテキル保存的處置ノ基礎的態度モ決定的ニ變更スルコトノ出來ヌ古イ反對ガ存在スル。

Molfino, Boreo, Viacava 及ビ Gouneia ハ前ト同樣ニ妊娠、就中授乳ヲスル產褥ハ肺結核ノ經過ニ常ニ不良ナル影響ヲ及ボストイフ見解ニ立ツテキル。Cohn ハ夫レニ反シテ妊娠中ヲ通ジテ活動性結核ハ高度ニ危險デアルガ2年以上不活動性デアルモノニ於テハ不良ナル影響ハ稀デアルトイフ。Gastelli モ同意見デアル。Young ノ材料デハ46例中27(58.6%)ハ產褥ニ惡化シタ、氏ハ陣痛ト產褥ハ結核ノ經過ニ害作用ヲ及ボスト結論シタ。Castelli ハ811例ニ就テ觀察シ、ソノ內589(85.2%)例ハ妊娠末期迄無事經過シタ、89(14.3%)例ハ早期ニ分娩シタ(40失產、49早產)以上ノ內3.7%ハ分娩後早晩死亡シ、29人ハ產褥ニ惡化シタ。氏ハ妊娠ニヨル肺結核ノ影響ハ不良ノ意味デハ8.65%ヲ數ヘ85.92%ハ肺結核ノ經過ガ妊娠ニ無關係デアルトシタ。Dumarest ト Leonardi ハ前述ノ材料ノ批判ニ際シテ主要ナルコトハ結核ノ個々ノ型ヲ區別スルコトデアル、此ノ必要ナコトヲ忽ニスルコトガ今日ノ意見ノ混亂ニ責ガアルトシタ。氏等ハソノ材料ヲ臨牀的及ビ解剖的ニ分類スル卽チ Fibrös-sklerotische Form ハ exsudative-käsige Form ヨリ豫後ガ良イ、古キ sklerotisch ノ結核ハ尙充分 organisieren シテキナイモノヨリ確實ニ良好デアル。Gonveia モ臨牀的解剖的區別ヲ必要トシ、ulzero-kaseöse 及ビ kavernöse ノモノヲ inaktive verkalkte 及ビ vernarbte ノモノヨリ區別シ、後者ハ何等影響ヲ受ケヌガ前者ハ妊娠始マルト共ニ惡化スルトシタ、尙氏ハ妊娠中如何ナル因子ガ結核ニ惡影響ヲ與ヘルカトイフ疑問ヲ出シ、ソレニ對シ Anergie ヲ責アルモノト信ジ、Dumarest ト Leonardi ハ別ノ意見ヲアゲテキル。

次ニ妊娠ハ妊婦ニ對シテ早期ニ中絕サルベキデアルカ或ハ胎兒ニ生命ヲ保ツテ肺ノ狀態ヲ極力治療スベキカトイフ問題デアルガ Cohn ハ醫師ハ妊娠ト結核ニ際シテ直ニ中絕ノコトヲ考ヘルコトヲ止メネバナラヌ、結核ニ對シテ人ニ中絕ヲ全然無害ニ行フコトハ全ク誤レル考ヘデアラウト。Castelli ハ中絕ニヨツテ切迫セル危險ノアルコトヲ明瞭ニシタ、氏ハ50%ノ例ニ於テ中絕ニヨル母體ノ害ガ起ツタコトヲ擧ゲタ。Behrs ハ肺結核ガ妊娠ニヨツテ不良ノ影響ヲ受ケタ故ニ中絕ヲ行ツタ8例ヲ擧ゲタ、ソノ內6例デハ手術ガ狀態ヲ惡化サセタ。唯2例ノミ狀態ガ變ラナカツタ。反對ニ手術ヲシナカツタ10例ヲアゲソノ內8例ハ妊娠中同樣ノ狀態デアリ、2例ノミ經過ノ速度ガ速クナツタ。更ニ妊娠中及ビ產褥ニ於テ結核ガ進ンダ13例中氏ハ9例ニ於テ適當ナル時期ニ治療スルコトニヨリ良好ナル影響ヲ與ヘルコトガ出來、他ノ4例デハ狀態ガ既ニ進ンデキタノデ如何ナル療法モ效果ガ無カツタ。然シ29例デハ妊娠中モ產褥デモ結核ニ何等ノ影響ヲ示サナカツタ。Behrs ハ氏ノ材料カラ早期ノ人ニ中絕ハ結核ノ經過ニ全クカ或ヒハ唯僅カノ影響シカ與ヘナイトイフ結論ヲ引出シ、結核ニ於テ妊娠ヲ中絕スベキカトイフ問題ハ最早論爭トハナラヌ。ムシロ Schultze, Rhonhof 及ビ Hausen ノ結核ニ於テハ妊娠中絕ハ規則トシテ禁ズベキデアルトイフ立場ニ贊同シタ。Dumarest, Leonardi, Molfino, Boreo, Viacara, Cohn, Caussade 等ハ結核ノ妊婦ニ於テ人工中絕ヲ說ク人々デアルガ一般ニ例ノ選擇ヲ要求スル。適應ヲ定メルニハ個々ノ人々デ本質的相違ガアルガ、一致セル點ハ中絕ノ時期ニ就テデアル。之ハ3—4ケ月ニ限ラレ、ソノ後デハ妊婦ニ對シテ危險デナクトモ何等役ニ立タヌ。Dumarest, Leonardi ハソノ後ノ妊娠月數ニ於テハ正常ノ時期ノ分娩デモソレヨリ早クテモ、同樣デ中絕ニ依ツテ人ハ結核ノ妊婦ニ對シテ危險ナル產褥ヲ急速ニ招來スルニ過ギヌト云フ。Young ハ妊娠4—5ケ月ノモノヲ選ブコトヲ示シタ。殊ニ妊婦ノ一般狀態ハ良好デ產褥ニ於テ結核ガ惡化スルト思ハレタトキヲ選ブ。Caussade ハ人工中絕ニ對スル適應ハ種々ノ結核ノ療法ガ斷念サレタトキトシ、Molfino, Boreo, Viacara ハ活動性結核デハ初產婦ノミハ保存的ニ試ミ、經產婦デハ中絕ヲスヽメル。Dumarest ト Leonardi ハ此ノ問題ニ對シ最モ中庸ノ說ヲ立テヽキル。ソレハ人工中絕ハ三ツノ條件ガ充タサレタ時適法デアル、第一ハアラユル保存的療法(虛脫療法モ含ム)ガ拒絕サレタ時、第二ハ中絕ニヨリ豫メ結核ノ惡化ガ

起ルコトガナイト思ハレタトキ、此ノ見地カラ手術ハ第3ケ月以前ニ行ハレネバナラヌ。第三ニ妊娠ノ中絶ガ母體ノ生命ヲ脅カス新シイ推進力ヲ避ケルニ適シテキルトイフ充分ナ症狀ガ存スルトキ。勿論是等ノ著者モ中絶ヲ治療法トハ考ヘナイ、手術ニ引續イテ肺結核ノ充分ナル治療ヲスルコトヲ望ム。保存的療法トシテハ外科的療法ヲ多クノ著者ガ推賞シ、Praloran ハ氏ノ行ツタ Kollapstherapie ヲ 80 例ニ就テ報告シタ。ソレニハ種々ノ方法ヲ用ヒタ、Pneumothorax, Phrenicusexhairese, Apicolyse, Plombierung, Thoraco plastik 等デ、氏ノ見解ニヨルト妊娠ニ於テハ此ノ方法ニ對シテ何等禁忌ガナイ。氏ハ此ノ方法デソノ患者ノ 78% ハ恢復シ、15% ハ靜止的ニ止マリ 4% ハ惡化シ、2.5% ハ死亡シタ。Cohn, Ferreira, Martinz, Pavlovsky, Peters 等モ同樣ノ方法デ效果ヲ收メタ。ソノ他結核妊婦ニ於ケル妊娠中毒、分娩時間、新產兒ノ運命等ニ就テモ述べ、又、骨結核ト妊娠、腎臟結核ト妊娠ニ就テノ文獻ヲ紹介シテキル。

（名醫大產婦人科　木村抄）

一般學術雜誌

小兒ニ於ケル「レントゲン」胸部寫眞ノ毛髮像ニ就キテ

飯尾、太田、間瀨：（滿洲醫誌. 27 卷. 1 號. 昭和 12 年 7 月）

大連醫院小兒科外來入院患者ノ寫眞 4053、健康兒童審査會ニテ撮影スル 138、本研究ノタメ特ニ撮影セル 40 ノ胸部「レントゲン」寫眞ヨリ種々統計的觀察ヲナセリ。

出現率ハ 22.7%。生後 1 ケ月內外ノ健康乳兒ニモ出現シ、滿 1 年未滿ニテハ 12.8% ナルモ、年齡ト共ニ增加シ、滿 15—16 歲ニテハ 47.1% トナル。毛髮像出現者ノマントウ氏反應陽性率ハ 62.3%、赤血球沈降速度モ非出現者ニ比シテ促進スルモ、結核性陰影ト常ニ並行的存在ハ示サズ 依テ毛髮像ハ生理的ニモ出現スルモ大部分ハ病的變化ニ由ルモノト考ヘラレル。病的變化ノ原因ノ全部ヲ結核性トナス能ハザルモ、結核ト密接ナル關係ヲ有スルモノト考フ。

（大連保養院　加藤抄）

肋膜炎ニ關スル研究（第 2 報）肋膜炎患者ノ肝臟機能ニ就テ

池谷、城野：（滿洲醫誌. 27 卷. 2 號. 昭和 12 年 8 月）

濕性肋膜炎患者ノ肝臟機能ヲ「サントニン」法ニ依テ檢査シ、約半數ニ於テ機能障碍ノアル事ヲ認メタ。ソノ程度ハ所謂潛在性障碍ニ屬スルモノデ滲出液ノ消失、解熱等ニヨツテ比較的速カニ恢復スル。依テ本患者ニハ食餌ノ制限ヲスル必要ガナイ。

（大連保養院　加藤抄）

肺實質ノ酵素作用ニ就テ（豫報）

泉、田中、高野：（滿洲醫誌. 27 卷. 6 號. 昭和 12 年 12 月）

肺實質ノ酵素作用ノ研究ヲナシ次ノ成績ヲ得タ。

（1）「アミラーゼ」作用陽性。（2）解糖酵素作用、稍〻酸性反應ニテ陽性。（3）「ペプシン」作用弱陽性。（4）「トリプシン」作用弱陽性。（5）「リパーゼ」作用、微弱陽性。（6）「レチターゼ」作用弱陽性。（7）「カタラーゼ」作用微弱陽性。（8）還元酵素作用陰性。（9）「ウレアーゼ」作用陰性。（10）抗「ウレアーゼ」作用弱陽性。（11）血液凝固促進作用陽性。（12）「グリセロフォスファターゼ」作用陽性。　（大連保養院　加藤抄）

Toriboulet 反應ノ動物結核診斷上ノ價値

Von Prof. Dr. Johannes Schmidt u. Sigrid Messing: Lässt sich die Probe nach Triboulet zur Erkennung der Tier-Tuberkulose verwenden ?(Berlin. Tierarztl. Wschr. Nr 14 1938)

Toriboulet 反應ハ腸壁ニ生ゼル結核性潰瘍ノ結果直接便中ニ排出サルヽ蛋白質ヲ檢シ、診斷ヲナス方法ニシテ全ク特異ナル反應ナラザルモ、肺結核ニシテ同時ニ腸結核ノアル場合之ヲ知ル事ガ出來ル。Tisell, Stein, Dierichs 等ハ腸潰瘍ニ或ル關係アリ、臨牀上用ヒ得ベキ方法ナリトシ、Hett ハ 175 例ノ實驗成績ヨリ特異性、非特異性腸疾患ノ診斷ニ價値ナシト。著者等ハ獸醫ニ於テモ興味アルモノトシ種々ノ動物ヲ用ヒ本反應ヲ行フ。

實驗ヲ行フニ當リ本反應ハ蛋白質ガ重大ナル關係アルモノ故、酵素性破壞產物、凝血等ニヨルモノハ區別スルヲ要シ、又攝取セル蛋白質ニモ注意シ試驗前 3 日

間ハ之ヲ與ヘズ。然シ試驗直前ニ與ヘルモノハ關係ナシ。尙又各臟器ノ寄生蟲、炎症性疾患、皮膚病等モ腸內ニ蛋白質ヲ排出ス。著者等ハ本實驗ヲ爲スニ當リ種々ナル試驗ヲ行ヒ次ノ如キ成績ヲ示ス。實驗總數124例、實驗動物ハ牛、馬、豚、羊等ナリ。此ノ中陽性ヲ示セルモノ16例、陰性ナルモノ108例ナリ。而シテ陽性ヲ示セルモノヽ中結核性疾患アルモノ6例、健康ナルモノ4例、他ノ疾患アルモノ5例ナリ。陰性108例中健康ナルモノ50、結核性疾患アルモノ26ニシテ他ハ寄生蟲、炎症性疾患等アリ。此ノ成績ヨリ觀ルニ本反應ハ結核性疾患ヲ見出スニハ不適當ナルヲ知ル。更ニ著者等ノ發見セル結核ヲ種類別トナスニ、肺及ビ腸間膜淋巴腺、肺臟、肝臟、腹膜、腸壁等ノ順ニシテ、動物ニアリテハ比較的經過短期間ナル爲カ腸壁ニ變化ヲ來セルモノ少シ。尙他ノ諸學者ノ實驗成績ニ於テモ同樣ナル傾向アリ、以上ノ事ヨリ結核ノ有無、更ニ腸結核ノ診斷價値ハ疑問視サレ、結核ニ特異ナル反應ナラズト著者ハ述ブ、又他ノ疾患ノ診斷ニ用ヒ得ベキカト言フニ之モ亦否定スルノミナリト。

（北研　野中抄）

會報並ニ雜報

昭和13年6月中入會者

澁谷創榮	大連市西公園町二一九
入江清	北海道雨龍郡深川町組合病院內科
岡谷寶	京都帝國大學醫學部辻內科研究室
杉本英一	同
淺野秀二	本鄕區駒込林町二〇二
染谷傳三郎	市川市新田四ツ割一五二九
島本保	九州帝國大學醫學部細菌學教室
金澤義孝	淺草區田中町二ノ三新海重雄方
菊地武彦	京都市左京區皆川追分町八七
高橋勝衞	新潟縣南蒲原郡羽生田
東京慈惠會醫院內科醫局	芝區愛宕町二丁目
高橋金彌	豐島區目白町四丁目五二

森論文（第五回報告其一）正誤表

頁	行	誤	正
445	下ヨリ 16 行目（左）	毛細管一般ニ。	毛細管一般ニ擴張ス。
451	下ヨリ 21 行目（右）	chemotaxische.	Chemotaxische

森論文（第五回報告其二）正誤表

頁	行	誤	正
455	上ヨリ 8 行目（左）	第一節　實驗	第一節　實驗所見
456	下ヨリ 11 行目（右）	大差ナキ、白血球	大差ナキ白血球
,,	下ヨリ 4 行目（右）	ソノ間纖維膠樣纖維	ソノ間纖細膠樣纖維
459	下ヨリ 18 行目（左）	アリ。體抗酸性ヲ	アリ。菌體抗酸性ヲ
460	上ヨリ 3 行目（右）	注射 44 日ニ	注射後 40 日ニ
,,	上ヨリ 12 行目（左）		
461		第二節　Th-A. E. C. 所見	Th-A. E. C. 注入所見
462	上ヨリ 2 行目（右）	尠カズ	尠カラズ
463	上ヨリ 2 行目（右）	結核菌、燐脂質	結核菌燐脂質
464	上ヨリ 12 行目（右）	幼若纖維層兩者	幼若纖維層ニシテ兩者
466	下ヨリ 4 行目（右）	者程	者程
475	上ヨリ 19 行目（文獻）	Klopostock	Klopstock